令和５年度
松浦高校
学校通信

風薫る丘

１月号 通巻137号
令和６年１月30日
文責 舟越 裕

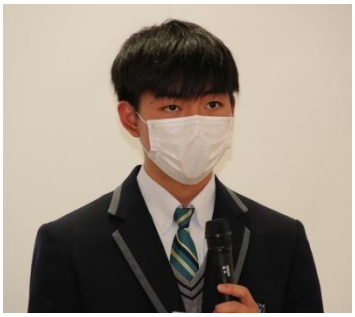
大学入学共通テスト

～ 15名の受験生、「夢の実現」への第一関門にチャレンジ！～

１月13日（土）・14日（日）の両日、大学入学共通テストが行われ、３年生16名が長崎県立大学佐世保校にて受験しました。受験した３年生は、平日の放課後や土曜・日曜・祝日に行われている学習会「松高学び場」に参加し、互いに励まし合いながら真摯に学習にいそしみ、「夢の実現」のためにクリアするべき様々な課題と向き合ってきました。そうした日々の努力によって、確かな学力を身につけるとともに、受験生としての「絆」を深めました。

共通テスト前日の１月12日（金）には受験者出陣式を開催し、３学年の職員や２年生13名が参加して、受験する３年生を激励しました。出陣式では、学校長・学年主任による激励の言葉に引き続き、２年生を代表して**松田蒼一朗さん（福島中出身）**が「私は『松高学び場』を時々利用し、先輩方と自学の時間を共有しましたが、そこで夜遅くまで一心不乱に学習に取り組んでいる先輩方の姿を見て大いに刺激を受け、来年に控えた受験に立ち向かう勇気をもらいました。そんな先輩方ならきっと大丈夫です。明日からの共通テストで最高の結果を得られるよう、自信をもって頑張ってきてください。私たち後輩も松高から応援しています」と受験生にエールを送りました。

その後、受験生を代表して**黒澤颯斗さん（御厨中出身）**が「私たちはこれまで共通テストに向けて、日々学習に励んできました。私たちが学習に集中できたのも、毎日指導してくださった先生方のおかげです。皆それぞれに共通テストで目標とする結果があると思います。私たち受験生一同、私たちを支えてくれている家族や先生方に結果で恩返しができるよう、明日からの共通テストで全力を尽くしたいと思います」と共通テストに挑む決意を力強い口調で語り、出陣式は幕を閉じました。



共通テスト当日も、受験生は受験教室に移動する直前まで控室で参考書や問題集を見直すなど、最後まで諦めずに学習に取り組みました。

『ＭＡＴＳＵＵＲＡ仕事図鑑』完成

～ １年生、地元企業の魅力を小・中学生に紹介 ～

本年度、１年生62名が『ＭＡＴＳＵＵＲＡ仕事図鑑』の作製に取り組み、地元企業が行っている仕事の魅力を紹介しました。生徒たちは昨年７月下旬、班ごとに市内の企業を訪問してインタビュー・写真撮影などを行い、２学期に入ると記事の執筆や校正、地元のデザイン業者の協力を仰いで表紙のデザインやレイアウトの考案などの編集作業を行いました。『仕事図鑑』は昨年12月下旬に完成し、市内の小・中学校などに配布されました。表紙のデザインを担当した**森はいねさん（吉井中出身）**は「表紙に本校のマスコットキャラクター『まつドリー』を描くことや様々な仕事をわかりやすいイラストで表現すること、表紙全体をカラフルに仕上げることを心がけました。内容も各々の仕事についてわかりやすく記されているので、小・中学生の皆さんにはじっくりと読んでもらって、松浦の企業の魅力を感じてほしいと思います」と語りました。

まつナビ課題研究　プレ構想発表会

～　１年生、課題研究テーマ設定に向けて一歩前進　～

12 月６日（水）、１年生を対象に「まつナビ課題研究　プレ構想発表会」を行いました。生徒たちは、２年次に行う課題研究のテーマ設定に向けて、現時点での構想をまとめて発表することを通して、研究の対象・目的・方法などを確認しました。「食品ロス　０(ゼロ)計画」というテーマで発表した**山本兼大さん（御厨中出身）**は「資金面や協力者についてもっと深く考えることが、自分たちの研究の課題だということが分かりました。発表自体はスムーズに行うことができたので、今後につなげたいと思います」と語りました。

松浦こども博

～ 商業クラブは「まつボーロ」の販売、生徒有志はスタッフとして参加 ～

12 月 17 日（日）、松浦市文化会館にて「松浦こども博」が開催されました。この催しで、昨年度の２年生が「まつナビ」課題研究の一環として百枝製菓舗と共同で開発した「まつボーロ」を商業クラブの生徒たちが販売し、生徒有志がスタッフとして会場設営や当日の受付等を行い、「こども博」の成功に貢献しました。

主に前日の設営作業に参加した**西田葵さん（３年　調川中出身）**は「『こども博』の運営に関わることで、地元企業の方々と交流できたことがとても楽しかったし、自分にとっていい経験になりました。『こども博』に来てくれた子どもたちには、松浦の企業の素晴らしさを感じて、松浦をもっと好きになってほしいと思います」と語りました。

性教育講演会

～　２年生、「性」に関わる問題について理解を深める　～

12 月 21 日（木）、２年生を対象に「性教育講演会」を行いました。県北保健所の保健師を講師としてお招きして、二次性徴（心と体の変化）やいのちのバトン、性行為に対する責任などについて、わかりやすく話してくださり、生徒たちも熱心に耳を傾けていました。**町田涼馬さん（今福中出身）**は「体と心の成長やＬＧＢＴＱについて、改めて考える良い機会になりました。今後も高校生であることを自覚し、自分の行動に責任をもって生活していきたいと思います」と語りました。

「　災害と教育　」　　校長　舟越　裕

能登半島地震により被害に遭われた皆さまへ、心からのお見舞いを申し上げます。そして、ご家族や大切な方々を亡くされた皆さまへ、謹んでお悔やみを申し上げます。

2012 年夏、ある教育セミナーで東日本大震災時に岩手県立大船渡高校の教頭だった村上育朗先生の話に心を動かされ、翌月には村上先生が住む陸前高田市を訪問しました。津波被害がそのままの高田高校の校舎に入った際、村上先生が散乱している物（教科書やノート）を指さして仰った言葉は今でも忘れられません。

「これはゴミじゃないんだ。マスコミは廃棄物と言っているけど、これは俺たちの大切な財産なんだよ」

災害は、一瞬にして人の命や財産を奪っていきます。長崎県も、長崎大水害や雲仙普賢岳の大火砕流で大きな被害を受けました。高校への影響では、生徒・教職員やその家族が被災者となる場合があります。学校が使えない、使えたとしても避難所となり授業ができない場合もあります。さらに就職試験や受験期の災害となると、生徒への影響は非常に大きく、被害状況によっては就職や進学を断念する生徒も出てきます。

一方で、高校生の避難所経営等での活躍や、困難と向き合いながら自分の進路を実現した生徒の話を数多く聞きました。そして、復興支援の中で、新たな教育が実践されてきました。「まつナビ」のような探究学習も、その一つです。日常生活の中では危機的な状況を想像することは難しいからこそ、「自分事」として考えるよい機会になります。また、被災した方々のことを忘れずに、可能な範囲で息の長い支援をしていくことも大切なことです。その中で松高として何ができるか、生徒とともに考えていきたいと思います。

松高
YouTube

松高
ホームページ

松高
インスタグラム

松高
月間行事予定